

【芦北保健医療圏】

芦北圏域では、取り組むべき課題として下記の9項目を設定しました。

これらの課題に対して、芦北圏域の22団体より令和7年度の実施状況の報告がありました。

1. 県境医療連携
2. 水俣病対策
3. 生活習慣病（糖尿病を含む）の発症予防と重症予防
4. 外来医療に係る医療提供体制の確保
5. 在宅医療
6. 救急医療
7. 災害保健医療福祉
8. 新興感染症の発生・まん延時における医療
9. 歯科保健医療

第8次熊本県保健医療計画圏域編 取組状況整理表

【芦北保健医療圏】

(1) 県境医療連携

【現状と課題】

○芦北圏域は、鹿児島県北部の出水保健医療機関及び始良・伊佐保健医療機関と隣接し、管内の地域医療支援病院である国保水俣市立総合医療センターの令和4年度(2022年度)における全紹介患者のうち23%が両圏域からの照会となっており、また、救急患者の8%が両圏域からの患者であるなど、医療提供においても密接に連携しています。

○今後も地域住民の健康と生命を守るため、これらの圏域との医療連携体制を維持、充実していく必要があります。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
・地域医療連携懇話会等の機会を通じて行政、医師会等関係機関の更なる連携・協力体制構築を図り、迅速な受入体制のネットワーク化、救急搬送症例の時間短縮を図ります。	[水俣市] ・地域医療連携懇話会等へ参加し、関係機関の更なる連携・協力体制構築に努めました。	・引き続き、地域医療連携懇話会等へ参加し、関係機関の更なる連携・協力体制構築を図ります。
	[水俣市芦北郡医師会] ・地域医療支援病院運営委員会や地域医療連携懇話会に参加し、出水地域や伊佐地域の関係機関等との連携強化に努めた。	・今後も引き続き、地域医療支援病院運営委員会や地域医療連携懇話会に参加し、出水地域や伊佐地域の関係機関等との連携強化に努める。
	[国保水俣市立総合医療センター] ・国保水俣市立総合医療センターでは令和7年6月27日に地域医療連携懇話会を実施。水俣芦北地域のみならず、北薩地域の医療機関、行政、救急、介護福祉関係施設等と意見交換を行い今後の連携を確認した。 併せて、地域医療支援病院運営委員会を年4回開催。患者受け入れ状況（紹介逆紹介含む）や施設開放状況、救急医療の提供状況等について情報共有を行った。	・引き続き、北薩地域を含む関係機関との連携を推進し、両圏域の住民の健康を地域の関係機関全体で守る体制を維持する。 なお、医療連携において、ICTの活用が推進され画像等を共有するツールとしてくまもとメディカルネットワークの活用も普及し利便性が高まっている。一方でくまもとメディカルネットワークは原則熊本県の医療機関を対象としていることから、北薩地域の医療機関では導入を希望しても初期費用等の経費がネックとなっている。

		今後の連携にはICTの活用は欠かせないものであることから、熊本県としてもくまもとメディカルネットワークの県境地域（他県）への普及拡大について検討いただきたい。
<p>・国保水俣市立総合医療センターにおいては、地域の急性期医療を支える中核病院として、二次医療提供体制を維持、強化していくとともに、適切な紹介・逆紹介により両圏域の住民の健康を地域の関係機関全体で守る体制を維持します。</p>	<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <p>・6/27国保水俣市立総合医療センター主催の地域連携懇話会にて水俣・芦北・出水地区の看護管理者との交流をおこない連例強化に努めました。</p>	<p>・交流することで顔の見える関係づくりができました。次年度も継続して開催予定</p>
<p>・出水・水俣保健所事業打合せ会等の機会を通じて、保健医療に係る課題等の情報共有に努めます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <p>・両保健所の日頃の業務に関する情報共有や体制等、協議事項について意見交換会（R7.6開催）を実施し、保健医療分野に関する連携を図りました。</p>	<p>・今後も保健医療に係る課題等の情報共有の場を確保し、県境連携体制の強化に努めます。</p>

【芦北保健医療圏】

(2) 水俣病対策

【現状と課題】

○「公害の原点」と言われる水俣病は、昭和31年(1956年) 5月1日の公式確認から、令和5年(2023年)で67年が経過しました。国と県では、これまで地域と連携して進められてきた環境復元への取組、健康被害への対応や健康不安解消等の取組に加え、水俣病関西訴訟最高裁判決(平成16年10月)を踏まえ、水俣病被害者及びその家族、地域住民を対象に「安心して暮らせる地域社会の実現」を目指した水俣病対策に取り組んでいます。当圏域においても、これらの中で特に地域のもやい直しや水俣病被害者支援等に取り組んでいます。

○今般、水俣病被害者の高齢化に伴う身体機能の低下や介護を行う家族の高齢化に伴い、医療ケアや介護の必要性が高まっており、患者一人ひとりに寄り添った支援が必要となっています。

取組の方向性	取組内容(令和7年度)	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・在宅療養中の水俣病認定患者の日常生活指導や保健指導を行うとともに、関係機関と連携しながら安心して在宅療養ができるよう支援を行います。また、各種相談にも対応し、日常生活における問題や健康上の不安の軽減及び解消に努めていきます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <p>・水俣病被認定者家庭療養指導事業にて家庭訪問を実施しました。</p> <p>また、胎児性水俣病患者等相談対応業務について、電話等による相談対応を実施しました。</p> <p>【参考：令和7年12月末時点】</p> <p>・訪問実績：延べ453件(患者一人当たり平均5.7回)</p> <p>・相談対応実績：延べ59件</p>	<p>・家庭訪問や相談対応を行う中で、在宅療養中の水俣病認定患者の課題の把握及び課題解決のための支援を関係機関と連携しながら行うことができました。</p> <p>・患者の高齢化に伴い、在宅療養においてそれぞれ課題や困難を感じる点が増えることが懸念されるため、本人や家族の思いをより傾聴し尊重しつつ、関係機関との情報共有や連携強化に努めます。</p> <p>次年度も引き続き家庭訪問及び相談対応を実施していきます。</p>
	<p>[水俣市]</p> <p>・健康管理事業において、健康診査の特定健診と併せ、日常生活及び神経症状に関する問診と上乘せして血液検査を実施(対象者は昭和43年12月31以前に本市に居住歴のある人)した。</p>	<p>・近年、在宅療養中の水俣病認定患者の日常生活指導や保健指導等の実施はない。</p> <p>・左記の実施により、対象者の健康上の不安の軽減と解消を図ることができ</p>

		た。ただし、新型コロナウイルス感染症等の影響による受診控え等もあり、受診者が伸びない状況である。今後も、より多くの対象者の検査を実施するためにも、事業を継続的に実施し、集団健診の全体的な受診率の向上を図っていく必要がある。
	<p>[芦北町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域健康管理事業において、特定健診や後期高齢者健診と併せ、昭和43年12月31日以前生まれの受診者を対象に日常生活及び神経症状に関する問診と追加項目を含む血液検査を実施しました。 ・水俣病発生地域高齢者等在宅支援事業 <ul style="list-style-type: none"> (1) ニーズ把握 (2) 女島、佐敷西、田浦西、田浦南における65歳以上に基本的行動機能の向上に資するサービス等の実施。 (3) 保健師等による健康講話、地域リハビリ講演会 音楽療法教室、口腔ケア教室、認知症予防講話 (4) 生きがいつくり支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診対象者の減少に伴い受診者は減少していますが、地域住民の健康に対する不安の解消を目的に、引き続き本事業を実施していきます。 ・水俣病発生地域高齢者等在宅支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ○成果 対象地域（女島地区、佐敷西地区、田浦西地区、田浦南）で基本行動機能の維持向上に資するサービス等を102回実施（905名参加）しました。 ○次年度以降の取り組み方針 引き続き対象地域で取り組んでいきます。
	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会員医療機関にて、日常診療等を通じて保健指導及び診療を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、各会員医療機関にて、日常診療等を通じて保健指導及び診療を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・水俣・芦北地域水俣病被害者等保健福祉ネットワークを通じて、「安心して暮らせる地域づくり」の更なる推進に取り組まします。 	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病被害者等保健福祉ネットワーク（水俣病保健課主管/水俣市社会福祉事業団に委託）の会議等に下記のとおり出席しました。（令和7年12月末時点） <ul style="list-style-type: none"> ・企画部会：1回 ・勉強会：1回 ・I S U I フェスティバル 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に参加することで、関係機関と共に保健福祉における課題の共有及び課題解決のための取組みについて検討することができました。次年度も引き続き会議等へ参加し「安心して暮らせる地域づくり」の更なる推進に取り組んでいきます。

<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク会議等を通じ、関係機関との情報の共有、意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉サービス等に関する情報提供等が行えるよう、今後も関係機関との連携を図る。
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣・芦北地域水俣病被害者等保健福祉ネットワークに参加し、関係機関等との連携強化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、水俣・芦北地域水俣病被害者等保健福祉ネットワークに参画し、関係機関等との連携強化に努める。

【芦北保健医療圏】

(3) 生活習慣病（糖尿病を含む）の発症予防と重症予防

【現状と課題】

○令和3年度（2021年度）国保の特定健康診査及び特定保健指導の実施率は年々向上しており、いずれも県平均より高い状況ですが、メタボリックシンドローム該当者の減少率（前年度比）は低下傾向にあります。

○令和2年度（2020年度）の特定健診結果（国保＋被用者保険）では、HbA1c が5.6%以上の者の割合やHbA1c が6.5%以上で未治療者の割合は県平均以下ですが、増加傾向にあります。

○令和4年（2022年）5月診療分（国保）の糖尿病受診率及び透析率は3市町とも県内上位であり、令和3年度（2021年度）の新規透析患者の約4割が糖尿病性腎症によるものであることから、糖尿病の重症化及び合併症予防が必要です。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
・若年層向けに、SNS等を利用して、より良い生活習慣を形成するための情報発信に取り組めます。	[水俣保健所] ・糖尿病予防月間等に合わせ、芦北地域振興局 Xに投稿し、情報発信を行いました。	・今後も若年層に関心が持ってもらえるよう、SNS等で随時情報を発信していきます。
	[水俣市] ・ホームページ等を利用し、生活習慣病予防や健康づくりに関する情報発信を行いました。また、集団健診ではネット申し込みを継続し、若年層の健診受診促進へ取り組みました。	・令和6年度の特定健診受診率は38%と前年度より低下しました。その内、40・50代の受診者が少なく、30代健診においても低迷しているため、若年層向けへの働きかけは今後の課題です。次年度以降も引き続き若年層への効果的なアプローチを検討し取り組んでいきたいと思ひます。
	[芦北町] ・広報誌を活用し、町民全体へ受診勧奨を行いました。また、年度末年齢40歳の人と、生活習慣病で通院している家族がいる人を対象に個別で受診の必要性や生活習慣病について情報提供を行い、QRコードからも健診の申込みができるようにしました。	・若年層の受診率向上を目指し、QRコードでの申込みを行いましたを受診率向上にはつながりませんでした。次年度もQRコードでの申込みを継続しつつ、若年層への効果的なアプローチを検討し取り組んでいきたいと思ひます。

	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町の健康まつり等に参加し、生活習慣病に関するポスターを展示し、情報発信に努めた。また、健康相談も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、各市町の健康まつり等に参加し、生活習慣病等に関する情報発信に努める。
	<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病は生活習慣病であるということ。特に歯周病との関連は深いということを広めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ周知されていないと思う。今後も関連性を伝えていきたい。
	<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における食育相談事業として依頼のあった保育園の職員や園児・保護者に対し、栄養相談を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は依頼があり継続して実施できています。食育相談事業でも複数の管理栄養士が参加できるよう新たに人員を増やしました。今後も依頼に応じて継続していく予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健と職域保健の関係機関・団体が連携し、事業所で行う健康教育への支援や健康経営の先進事例の紹介等を通じて、健康経営への取組を支援します。 	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣芦北地域・職域連携推進協議会（芦北圏域糖尿病対策地域連携会議と合同で実施）を開催し、関係機関と地域の現状や課題、今後の取り組みの方向性について共有を行いました。 ・国保ヘルスアップ支援事業について、商工会議所が開催する総会にて健康経営や食習慣に関する研修会を事業所向けに実施しました。その他、事業所が集まる研修会にて健康経営に関する啓発や支援の周知を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等を共有することで、それぞれの取り組みに活用することができました。引き続き協議会を開催し、関係機関との情報共有や連携に取り組みます。 ・ほぼ全ての研修会参加者が生活習慣や野菜摂取について見直し、改善行動を取ることができました。今後も関係機関と事業所訪問やセミナー等を実施し、地域での健康経営への取組や健康行動を取りやすい環境づくりの推進に努めます。
	<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療・保健の関係機関や各種地域の団体と「第2期いきいき・みなまたヘルスプラン」の理念のもと連携し取組みました。今年度は市内の企業や婦人会、学校からの依頼で、市の健康課題の現状と取り組みや等について講話を行いました。また、健康まつりを開催し健康相談のブース設置や健康講話などを行い、各団体と協同し取組みを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康づくりを促進するため、まず健診の受診勧奨を強化する必要があります。引き続き、各地域の団体や職域とも市の課題や取り組みの方向性を共有し、今後も各団体と連携しながら、それぞれの団体の取組みにおいても共有し、協同で取組みを進めたいと思います。

	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣・芦北地域・職域連携推進会議に参画し、関係機関等との連携強化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、水俣・芦北地域・職域連携推進会議に参画し、関係機関等との連携強化に努める。
	<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事療法の確認と指導による発症予防と重症化防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法の指導が中心になっていますが、運動、食事などの生活習慣の改善の指導にも今後は取り組むように努める。
	<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3土曜日 生協くまもにて「まちの保健室」開催 血圧測定、血管年齢測定、保健指導、健康相談を行いました。 ・11/24水俣市健康まつりにて血圧測定、血管年齢測定保健指導、健康相談を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室は7~10月開催57名の参加がありました。一定数の参加はあるものの、参加者が限られているため、大きなイベントがある月は、設置場所をイベントスペースに変更し、多くの人に利用してもらい、啓発活動が効果的に行っていきたいと考えています。
	<p>[八代水俣地域産業保健センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所を訪問し、産業医に従業者の健康診断結果を見ていただき、生活習慣病の方に受診勧奨又は日常生活の改善について意見を言っていた。いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨された方が受診されれば、また生活改善をされれば成果であるし、そうでなければ次年度さらに啓発に努め、健康経営につなげる。
	<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦北圏域糖尿病対策地域連携会議に関係機関として参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も積極的に参加していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の治療や療養指導に携わる専門職と行政が連携して、重症化を予防します。 	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦北圏域糖尿病対策地域連携会議（水俣芦北地域・職域連携推進協議会と合同で実施）を開催し、関係機関と地域の現状や課題等について共有を行いました。 ・医師会、歯科医師会、薬剤師会、歯科衛生士会、糖尿病療養指導士会等を連携し、地域住民を対象とした糖尿病予防フォーラムを開催しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き会議を開催し、関係機関との情報共有や連携に取り組みます。 ・糖尿病に関する正しい知識や生活習慣について周知することができました。今後も専門職と行政で連携しながら体制整備や普及啓発に努めていきます。

<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携ツールとして糖尿病連絡票を活用しており、対応医療機関への訪問や説明会の実施等を通して連携体制を構築しています。また、他機関が実施する医療機関も対象とした研修会等に参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病連絡票の活用実績の低下があり、連絡票に限らず医療機関との連携の機会や体制整備に取り組みたいと思います。
<p>[芦北町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症化予防の観点から継続した健診受診ができるよう、年度末に次年度の受診勧奨を行います。 ・CKD対象者は、保健師や管理栄養士が指導を行い新規透析導入にならないように努めました。 ・生活習慣病健診や特定健診の結果に基づき、糖尿病重症化予防の対象者に対して、保健指導、栄養指導を実施しました。また、要精検者や要医療者に対して医療機関への受診勧奨を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関と連携を図り、新規透析導入患者「0」を目指します。 ・健診の結果説明会や、要精検者への受診勧奨後も訪問指導等を通じて継続した重症化予防に取り組んでいきます。
<p>[津奈木町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診結果から、熊本県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づき糖尿病の発症、重症化・合併症予防に努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係機関と連携を図りながら糖尿病の発症、重症化・合併症予防に努めます。
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病連絡票を用いて、各医療機関と行政（水俣市）が連携し、重症化予防に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、糖尿病連絡票を用いて、各医療機関と行政の連携強化に努める。
<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服薬指導で病識を高め重症化を予防する 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法と食事療法の次に薬物療法があることに認識する。薬剤師会における研修会を開催する。

	<p>[国保水俣市立総合医療センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病週間に係るイベントの実施 展示、講演会、健康・栄養相談など ・糖尿病ウォークの開催 11月23日：参加者13名、スタッフ19名 ・あしきた健康フェア参加 血糖測定、糖尿病に関する相談など ・糖尿病教室の開催（院内） ・水俣芦北糖尿病カンファレンスの実施（2回/年） ・糖尿病連絡票説明会への参加 ・人工透析予防のための地域と医療連携に向けた学習会への参加（予定） ・水俣・芦北地域糖尿病予防フォーラムの実施（予定） 	<p>引き続き、啓発活動等を実施する。 新型コロナウイルス感染症の影響で休止、縮小していたイベントなどについて、広く参加を募るなども検討していく。</p>
	<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦北町健康まつりにて、水俣市立総合医療センターの糖尿病チームが血糖測定、糖尿病指導、血管年齢測定を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦北町健康まつりには70名の参加があり、血管年齢には多くの人が希望し測定を実施しました。次年度も継続して参加する予定です。
	<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣市健康まつり、あしきた健康フェアへ参加しフードモデルを使用した献立例やレシピの紹介、栄養相談を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、糖尿病の重症化予防にも努めていきます。
<p>(その他)</p>	<p>[水俣市地域婦人会連絡協議会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康課より講習 <ul style="list-style-type: none"> (1) 生活習慣病と水俣市の健康課題について (2) 生活習慣病予防のための食事について ・理事会で講習後、各地域に持ち帰り会員に伝える（健康手帳を利用） 	

【芦北保健医療圏】

(4) 外来医療に係る医療提供体制の確保

【現状と課題】

○芦北圏域では、28医療機関（令和5年4月1日現在）が在宅当番医制に参加し、地域の初期救急を担っています。

○学校医については、基本的に1校あたり内科、眼科、耳鼻科の計3人の学校医が配置されています。産業医については、ストレスチェックや長時間勤務者への対応が必要になったことに加え、働き方改革関連法により機能強化が図られ、健康相談の実施等、より一層の役割が求められています。さらに、乳幼児健診を実施する医師の確保が課題となっています。

○高齢化の進展に伴い通院困難な要介護度の高い高齢者が増加し、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう在宅医療の充実が求められています。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・一般診療所を新規開業する医師に対して、外来医療機能について「初期救急（在宅当番医）」「学校医」「予防接種」「産業医」「在宅医療」に加え「乳幼児検診」の6項目に関する協力の意向を確認し、より多くの外来機能を担う医師の確保に努めます。</p>	<p>[水俣市]</p> <p>・水俣市芦北郡医師会主催で水俣圏域の医師を対象に本市の乳幼児健康診査の研修(見学・体験等)を9月から12月間に9回実施しました。</p>	<p>・今後、医師会から提出予定の事業実施報告書を踏まえ、来年度の乳幼児健康診査従事医師の確保へ繋げていきます。</p>
	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・医療機関の新規開業は無かったが、各医療機関及び各会員に依頼し、「初期救急」「学校医」「予防接種」「産業医」「在宅医療」「乳幼児健診」への協力に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、新規開業医師へ「初期救急」「学校医」「予防接種」「産業医」「在宅医療」「乳幼児健診」への協力意向を確認するとともに、各医療機関及び各会員に「初期救急」「学校医」「予防接種」「産業医」「在宅医療」「乳幼児健診」へ協力いただくように努める。</p>
<p>・水俣市芦北郡医師会に設置している「水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター」と「芦北圏域在宅医療</p>	<p>[水俣市]</p> <p>・在宅医療体制の充実のため、「水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター」と連携し、会議や講演会を実施しました。</p>	<p>・在宅医療・介護の体制の充実のため、今後も関係者会議や講演会を実施していきます。</p>

サポートセンター」を中心に、在宅医療の提供体制の充実を目指します。	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水芦在宅ネットワーク会議等を通じて、関係機関・職種と連携し、在宅医療提供体制の充実に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、水芦在宅ネットワーク会議等を通じて、関係機関・職種と連携し、在宅医療提供体制の充実に努める。
	<p>[水俣芦北薬剤師会]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会の支援ができるように考えます。

【芦北保健医療圏】

(5)在宅医療

【現状と課題】

○芦北圏域では、水俣市芦北郡医師会に設置の水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター、芦北圏域在宅医療サポートセンターにおいて在宅医療・介護連携に関わる事業を実施しています。また、水俣芦北圏域在宅医療・介護連携推進会議、水俣・芦北地域在宅医療連携体制検討地域会議、地域ケア会議、水俣在宅ネットワーク会議等を通じて、関係機関の取組や課題等の共有を図っています。

○圏域の医療資源は、在宅療養支援病院2か所、在宅療養支援診療所7か所、在宅療養後方支援病院1か所、訪問看護ステーション8か所、在宅療養歯科診療所4か所、在宅患者訪問薬剤管理指導薬局25か所が整備されています。住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう在宅医療・介護に関わる関係機関の多職種連携をより一層推進することが必要です。

さらに、今後は、急変時の対応において在宅療養者の意思に沿った対応ができるよう、在宅医療・介護と消防の連携が必要です。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター、芦北圏域在宅医療サポートセンターの取組を維持し、更なる在宅医療・介護の連携体制強化を図ります。また、各種会議等を通じて、地域の医療・介護・福祉・行政等関係機関とより一層の連携を図り、課題等を共有します。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <p>・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療連携体制検討地域会議を開催しました。令和7年度も共催で行い、「第8次保健医療計画の現状報告」、「在宅医療・介護に関わる様々な関係機関等の取組み等の共有」を実施し、圏域の課題の把握に努めました。</p> <p>・県や市町、医師会が主催する会議や研修を通し、在宅医療・介護に関わる多職種連携の場に参加しました。</p>	<p>・今後も、水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療連携体制検討地域会議を開催します。</p> <p>・今後も、各会議や研修の場を通し、地域の医療・介護・福祉・行政等の関係者と連携し、課題解決に向けて取組みます。</p>
	<p>[水俣市]</p> <p>・地域ケア会議を通して、地域課題の共有、改善策の検討を行いました。また、処遇困難事例に対して、医療・介護等関係機関と連携した対応ができました。</p>	<p>・身寄りのない人、独居高齢者への対応については、引き続き支援ガイドラインの作成等仕組みづくりを検討していきます。</p> <p>また、関係機関との連携、業務効率化のためのICTを活用したツール導入を検討していきます。</p>

<p>[芦北町]</p> <p>・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターを中心に、研修会や地域ケア会議への参加や在宅医療・介護従事者の相談対応を行うことで、関係機関の連携強化を図りました。また、アンケート調査を通じて課題等の把握を行いました。</p>	<p>・各種研修や会議等により、在宅医療に関する知識や技術の向上につながりました。今後も、関係機関や多職種等と連携しつつ、情報共有や課題の共通認識を深め、より一層の体制強化に努めます。</p>
<p>[津奈木町]</p> <p>・水俣芦北在宅ネットワーク会議や水俣芦北圏域在宅医療・介護連携推進会議、地域会議合同会議を開催した。 また、各市町の地域ケア会議や連絡会議等に出席した。</p>	<p>・左記会議の開催により、医師や看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護士、生活相談員、行政など多職種との連携を図ることができ、情報や課題等を共有することができた。次年度以降も継続して取り組んでいく。</p>
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・水俣芦北圏域在宅医療検討会議や在宅医療委員会を開催し、在宅医療・介護の連携体制の強化に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、水俣芦北圏域在宅医療検討会議や在宅医療委員会を開催し、在宅医療・介護の連携体制の強化に努める。</p>
<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <p>・各団体と連携していきます。</p>	<p>・各団体の研修会に積極的に参加する。薬剤師会の主催する在宅医療研修会を行います</p>
<p>[国保水俣市立総合医療センター]</p> <p>・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携推進会議（4回／年）、地域ケア会議（2ヶ月に1回）への出席、また、個別ケースへの対応として要請があった際には、地域ケース会議に出席し、課題解決・連携を図った。</p> <p>・退院調整時に地域の介護福祉施設・他医療機関との連携をはかり連携強化に努めた。 （在宅サポートセンターの取り組みへの寄与）</p>	<p>引き続き連携し、課題に対して協力して解決するなど、関係者間の連携を強化する。</p>

<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科においても在宅医療へのニーズは高まっている。県歯科医師会主催の研修会に各自参加して研鑽している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療に関しては医院差がある。
<p>[訪問看護ステーション]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護部会を3か月に1回に変更し、できるだけ管理者は集まれる環境へし、情報共有や事例検討、課題等について確認している。 ・ 医療依存度の高い利用者に対しては複数のステーションで対応するなど顔もみえる環境作りをおこなっている。その中で、訪問診療や訪問介護など介護サービスと連携おこなっている。 	<p>部会を3か月に1回にし業務負担の軽減と3か月に1回は管理者の出席は出来ている。また、その都度LINEを使用し情報共有できている。</p> <p>各事業所毎のBCP研修できていないため次年度取り組んでいきたい。</p>
<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県栄養士会が開催する研修会に積極的な参加を会員に促しました。 ・ 会員が地域ケア会議に参加し、多職種と連携しながら在宅での食事支援を検討しました。 ・ 管理栄養士による在宅訪問栄養食事指導を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケア会議への参加を継続します。地域ケア会議に参加できる会員を1名から2名に増やしました。また、次年度にも参加できる会員を増やせるよう人材育成にも努めました。 ・ 認定在宅訪問管理栄養士を取得しスキルアップを図りました。在宅療養者の食支援に関わっていきたいと思います。
<p>[水俣市地域包括支援センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水俣市いきいき健康課と水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターと連携し、地域ケア会議「医療・介護連携推進会議」を継続開催しています。医療機関、介護事業所、関係機関との連携体制の維持を図るとともに、地域のケアマネジャー等との情報共有や支援に取り組んでいます。 	<p>医療機関、介護事業所、行政等の関係機関が参加する地域ケア会議を継続して開催することで、連携体制の維持が図られています。また、入退院支援や生活課題が複雑化したケース等について、多職種間で課題を共有しながら対応方針を検討する機会が確保され、支援にあたる体制づくりの推進につながっています。</p>

	<p>また、高齢者の退院支援や在宅生活の継続に向けた支援、生活課題が複合するケースへの対応、関係機関間の役割整理等について、地域ケア会議を開催し、多職種で検討を行っています。さらに、月に1回開催される包括的支援事業連絡会においても、課題共有と連携の推進を図っています。</p>	<p>一方で、独居や老々世帯、身寄りがない高齢者等、支援が長期化・複雑化するケースが増加しており、医療・介護分野のみでは対応が困難な事例も見られます。今後も多職種間での情報共有や連携を一層促進し、福祉や生活支援等の分野も含めた包括的な支援体制の関係づくりに取り組みます。</p>
	<p>[芦北町地域包括支援センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣・芦北地域在宅医療連携体制検討地域会議や在宅医療・介護連携推進事業の研修会等に参加し、連携の促進に努めました。 ・介護支援専門員定例会や地域ケア会議を開催し、課題の共有や関係機関との連携強化に努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等を通して、地域の医療・介護・福祉・行政との更なる連携を図ります。 ・今後も引き続き、水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターと連携し、情報共有に努め、在宅医療と介護の充実を図ります。
	<p>[津奈木町地域包括支援センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣ネットワーク会議等に参加し、多職種と意見交換を通して交流を図り、スムーズで顔の見える連携がとれる様努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多方面からの意見を聞くことで、気づかされることが多く学びにつながっています。今後も継続して出席し関係性を構築し、気軽に相談でき、すぐに連携できるよう体制作りを努めたいと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターにおける社会資源リストの更新、くまもとメディカルネットワーク導入研修、関係機関からの相談、ACPの出前講座等の取組を通し、在宅医療と介護の充実を図ります。さらに、必要時に消防との情報共有・連携を行う 	<p>[水俣保健所]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターの事業実施を支援します。また、引き続き、消防と連携し、急変時対応や看取り等について情報共有・連携体制の確保に努めます。
	<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携支援センターが作成した、在宅医療パンフレットや人生会議ノートを周知し、在宅医療に関する普及・啓発を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護に関する市民への周知を行っています。

つことのできる体制を確保します。

<p>[芦北町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターにおいて、町内で開催される健康フェアなどのイベント及び映画上映会などで、人生会議・ACPについて周知しました。また、庁舎窓口での相談対応や人生会議ノート配布を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙等を活用し、在宅医療・介護に関する理解促進と周知啓発を行います。
<p>[津奈木町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員研修会や介護支援専門員月例会の開催、在宅医療・介護関係職種の研修に対する助成を実施した。また、管内で働くケアマネジャーに対して実態調査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修費助成等によりケアマネジャーや在宅医療・介護関係職種の技術や知識等の向上を図ることができた。また、ケアマネジャーの実態調査については現在集計中ではあるが、ケアマネジャーの実態や現状について把握することができ、この結果を受けてケアマネジャーや医療・介護従事者等に対する必要な支援に取り組んでいく。
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源リストの更新、関係機関からの相談、人生会議ノートの普及啓発等を行い、在宅医療と介護の充実に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、社会資源リストの更新、関係機関からの相談、人生会議ノートの普及啓発等を行い、在宅医療と介護の充実に努める。
<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまもとメディカルネットワークの導入件数を増やします 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きくまもとメディカルネットワーク導入を増やしていきます
<p>[訪問看護ステーション連絡協議会水俣芦北地区]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源リストの更新 ・熊本メディカルネットワークの活用。 ・水俣芦北在宅ネットワークへの参加。 ・地域ケア会議への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源リスト、熊本メディカルネットワークは必要時活用できているがタイムリーに活用できていない。今後も活用の幅ひろげ利用者さんの速やかな情報共有に役立てたい。また、困難事例や独居高齢者が増加する中キーパソンがいないことが多くかんじられる。在宅看取りするかかりつけ医の減少もあり利用者望まれる最後まで自宅で暮らしたいに寄り添うことができなくなっているのも課題。

	<p>[水俣市地域包括支援センター]</p> <p>・社会資源リストを活用した相談支援や事業所案内を行うとともに、在宅医療・介護連携支援センターが実施する研修や会議等へ積極的に参加し、知識やスキルの向上に努めています。</p> <p>また、ACPの推進に取り組み、特に身寄りのない高齢者等に対して、「人生会議ノート」等を活用した意思の整理や意思表示の支援を行うとともに、必要に応じて関係機関との情報共有を図りながら支援を進めています。</p>	<p>・社会資源リストを活用した相談対応や事業所案内を継続して行うとともに、在宅医療・介護連携支援センターが実施する研修への参加等を通じて、支援に必要な知識と対応力の向上が図られています。また、ACPの推進についても、関係機関との連携の中で課題の整理と共有が進んでいます。</p> <p>しかし、人生会議ノート等の活用が必ずしも十分には進まず、意思表示が困難な高齢者や、記入内容が家族や関係機関で共有されないケースも見受けられます。今後は、地域ケア会議や関係機関との協議等を通じて、連携や情報共有を促進し、地域における取組が円滑に進むよう、関係づくりの推進に取り組めます。</p>
(その他)	<p>[介護支援専門員協会水俣・芦北支部]</p>	<p>・パーキンソン病の症状がある方が増えており、どのように地域で支援をしていけるのか</p> <p>・介護師・看護師不足による施設運営ができなくなっている</p> <p>現状で在宅生活を支援していけるのか</p>

【芦北保健医療圏】

(6) 救急医療

【現状と課題】

○芦北圏域の救急医療体制は、医師会会員の在宅当番医が休日の初期救急医療を担当し、水俣市にある2か所の救急告示病院が二次救急を担当しています。また、芦北町にある一部の医療機関においても救急患者の受入れを行っています。

○芦北圏域において、救急出動件数は、平成30年（2018年）が2,220件、令和4年（2022年）が2,342件と増加傾向であり、今後も高齢化による増加が見込まれます。救急車の出動件数に占める軽症者の割合は、平成30年（2018年）が42%、令和4年（2022年）が40.3%と減少しており、全国の救急統計（軽症者搬送率47.3%）と比較しても少ない値であるため、救急車の適正利用は図られていると考えられます。今後も適切な機能・役割分担により、重症度・緊急度に応じた適切な救急医療の提供が必要です。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
・引き続き、医師会や救急告示病院と連携し、夜間や休日等の初期、二次救急医療体制を維持します。	[水俣保健所]	・各市町・医師会・救急告示病院の取組である在宅当番医制度、病院群輪番制病院運営事業に関する取組みを支援します。
	[水俣市] ・水俣市芦北郡医師会との委託契約により、在宅当番医の当番日の調整をし、市民に対して情報提供を行いました。これにより、市内医療機関での安定した休日の医療体制を確保することができました。 ・国保水俣市立総合医療センター及び医療法人岡部病院との委託契約により、夜間や休日等の初期、二次救急医療体制を確保することができました。	・今後も医師会の協力を得ながら、在宅当番医制事業、病院群輪番制病院運営事業を実施し、夜間や休日等の初期、二次救急医療体制を確保します。
	[芦北町] ・在宅当番医制事業及び病院群輪番制病院運営事業を実施し、休日や夜間等の救急医療体制を確保しました。	・引き続き、在宅当番医制事業及び病院群輪番制病院運営事業を実施し、休日や夜間等の救急医療体制を確保します。また、広報紙等を活用して、救急車及び救急医療機関の適正利用等の周知を図ります。

<p>[津奈木町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番・救急医療情報提供実施事業、病院群輪番制運営事業について、水俣市芦北郡医師会と、国保水俣市立総合医療センター並びに医療法人岡部病院と委託契約を締結し、休日・夜間の初期、第2次救急医療体制を確保しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係市町及び関係医療機関と連携して休日・夜間の初期、第2次救急医療体制の確保に努めていきます。
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制度を実施し、日曜・祝祭日の初期救急医療体制の確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、在宅当番医制度を実施し、日曜・祝祭日の初期救急医療体制の確保に努める。
<p>[国保水俣市立総合医療センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣芦北広域行政事務組合消防本部と連携し構築したICTツールを活用した画像等情報共有の仕組みの活用により、患者情報等の迅速かつ正確な把握につながり、救急患者の受け入れがスムーズに行われた。 ・救急救命士育成のための講習への協力 ・MCカンファレンスの実施による情報共有、連携の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き連携し、課題に対して協力して解決するなど、関係者間の連携を強化する。
<p>[岡部病院]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院、病院群輪番制病院として24時間365日救急医療体制を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保も非常に困難な状況ですが、救急告示病院・病院群輪番制病院として24時間365日救急医療体制を維持できるよう努力していきます。

<p>・芦北圏域の現状と課題を踏まえて、適切な機能・役割分担による救急医療体制の強化を図るため、引き続き救急医療専門部会等において、課題を共有し、関係者間の連携を強化します。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <p>・救急医療専門部会（R8.1）では、3年ごとに行う「救急告示病院の更新」、消防本部による「救急活動概況の共有」、「健康危機管理に関する取組状況」を議題とし、救急医療体制の強化を図りました。</p>	<p>・今後も、救急医療専門部会を開催し、各関係機関の役割の明確化及び連携強化に努めます。</p>
	<p>[水俣市]</p> <p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との情報共有、連携に努めました。</p>	<p>・引き続き、芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との情報共有、連携に努めます。</p>
	<p>[芦北町]</p> <p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との連携を図りました。</p>	<p>・引き続き、芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との連携を図ります。</p>
	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・水俣芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参画し、関係機関等との連携強化に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、水俣芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参画し、関係機関等との連携強化に努める。</p>
	<p>[水俣芦北薬剤師会]</p>	<p>・薬局に心肺蘇生器の導入</p>
	<p>[水俣芦北広域行政事務組合消防本部]</p> <p>・奇数月に救急症例検証委員会を実施し、偶数月には救急カンファレンスを開催した。</p> <p>・熊本県内12消防本部（局）輪番で行われる救急教育セミナーに参加し、今年度2月に当消防本部主催でセミナーを開催予定。</p> <p>・国保水俣市立総合医療センター及び県境消防本部合同シミュレーションを開催した。</p> <p>・救急医療専門部会等に、R7年の救急件数等に関する報告を行う予定。</p>	<p>・救急カンファレンスにおける提示症例については、消防側からの提示に加え、医療機関側からの提示も行われており、消防と医療機関が相互に連携しながら、救急医療に関する知識の習得と理解の深化を図っている。</p> <p>・今年度2月の救急教育セミナーについては、輪番により当消防本部が主催となる予定であり、地域メディカルコントロール協議会と連携・協力しながら取り組んでいく予定である。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・国保水俣市立総合医療センター及び県境消防本部合同シミュレーションでは、国保水俣市立総合医療センター、当消防本部及び北薩3消防本部で救急シミュレーション訓練を行い、県境をまたいだ地域全体の救命率向上に寄与する訓練となった。
	<p>[岡部病院]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療専門部会、水俣芦北地域メディカルコントロール協議会に参加し、連携の強化を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも救急医療専門部会、水俣芦北地域メディカルコントロール協議会等に参加し、更なる連携の強化を継続していきます。

【芦北保健医療圏】

(7) 災害保健医療福祉

【現状と課題】

○これまで平時からの災害時体制整備に向け水俣・芦北地域災害保健医療対策会議を行ってきましたが、令和5年度(2023年度)から災害時の保健医療ニーズに加え、福祉ニーズも併せて情報共有・連携体制を構築するため、福祉関係機関を追加した「水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議」を開催しています。

○EMISについては、全病院・有床診療所をはじめ、関係団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防本部）が登録を行っています。今後は市町や無床診療所とも情報共有ができる体制を構築する必要があります。また、災害時に医療機関の情報収集・提供が円滑に行えるよう研修の継続が必要です。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議を開催し、関係機関における災害時の取組に係る情報更新を行い、平時からの顔の見える関係づくりに努めます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <p>・水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議（R7.10）では、「災害時保健活動アクションカード」、「リモート会議立ち上げ訓練実施要領（案）」の共有、「各団体の意見交換」、熊大病院災害医療教育研究センターによる講演「災害時における通信の確保」を内容としました。また、対策会議メンバーを対象に発災を想定したリモート会議立ち上げ訓練（R7.11）を開催し、昨年度課題として挙げた、発災時においても円滑に関係機関がつながる仕組みの構築に向けた取組を実施しました。</p> <p>・今年度の水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議では、設置要領に定められている機関以外にも、市町防災担当課や、水俣・芦北圏域障がい者総合支援協議会事務局にもオブザーバー参加していただき、連携体制構築の強化に努めました。</p>	<p>・昨年度、挙げた課題を整理し、解決に向けた取組を図るため、今後も関係機関と連携し、水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議を開催します。</p>

<p>[水俣市]</p> <p>・水俣、芦北地域防愛保健医療福祉会議に参加し、平時からの顔の見える関係づくりに努めました。</p>	<p>・引き続き、水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参加し、平時からの顔の見える関係づくりに努めます。</p>
<p>[芦北町]</p> <p>・防災（総務課）と福祉（住民生活課・町社協）が連携して、支え合いマップ（平時の要支援者の見守りが見える化）及び防災避難マップ（支え合いマップで見える化された避難行動要支援者の災害時における避難行動支援要領が見える可）の取組を促す防災講座を各行政区で実施するとともに、行政区の取組（マップ作成）を支援しました。</p>	<p>・成果</p> <p>5地区（上原、桑原、湯浦北、花岡東、湯南団地、田浦3・4）で防災講座を実施し、1地区（上原）がマップを作成。今後3地区（桑原、花岡東、湯浦団地）がマップ作成を予定。</p> <p>・次年度以降の取組方針</p> <p>①引き続き防災講座を実施し、各行政区に対してマップ作成の取組を促します。</p> <p>②作成した地区の防災訓練を支援します。</p> <p>③同様の取組を進めている他自治体の防災リーダーと交流を行います。</p>
<p>[津奈木町]</p> <p>・水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参加し、関係機関における災害時の取組について情報共有を行い、平時からの顔の見える関係づくりに努めました。</p>	<p>・引き続き、水俣・芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参加し、平時からの連携強化を図ります。</p>
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・水俣芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参画し、関係機関等との連携強化に努めた。</p> <p>・発災を想定したリモート会議立上げ訓練に参加し、発災時の情報収集・伝達を各関係機関と連携して行った。</p>	<p>・今後も引き続き、水俣芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参画し、関係機関等との連携強化に努める。</p>
<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <p>・災害専用薬剤師会グループLINEの整備</p>	<p>・災害時に情報共有ができるように、定期的に運用してまいります</p>

	<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/6に開催された令和7年度水俣芦北地域災害保健医療福祉対策会議に参加いたしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時の保健所の活動や情報共有の必要性が理解できました。協会としては、平時から避難所で活動する保健師と災害支援ナースの連携を図り、発災時にスムーズな避難所開設と運営に貢献したいと思います。
	<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七浦摂食嚥下研究会と合同で阿蘇郡市歯科医師会の田上大輔先生をお呼びして災害歯科研修会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ始まったばかりでわからない。
	<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（熊本県栄養士会水俣地域事業部）連絡網を作成し会員に配布しました。 <p>（水俣保健所主催）</p> <p>管内給食施設等に勤務する管理栄養士・栄養士及び栄養士会会員を対象にした研修会が開催され、近隣施設間での伝達訓練を行いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（熊本県栄養士会水俣地域事業部）会員が所属する施設での災害対策マニュアルの整備し、フリーランスの管理栄養士とも協力し、地域の食支援活動体制を整備します。次年度は栄養士会研修会を開催し、会員同士、横のつながりを強化します。 <p>（水俣保健所主催）</p> <p>研修会への参加、伝達訓練の継続</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市町及び無床診療所のEMIS登録を進め、災害時の情報共有の円滑化を図ります。EMISの操作研修を年1回以上実施し、医療機関及び関係団体の災害時の情報提供・収集の円滑化を図ります。また、災害時に迅速な活動に取り組めるよう、県や市町が実施する防災訓練に参加します。 	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度から新EMISへと移行し、病院・有床診療所のみ登録となりました。（管内は全病院・有床診療所が登録済み）新EMISへ移行後、災害拠点病院と連携しながら、管内の登録医療機関向け研修（R7.7）を実施しました。 ・芦北町防災フェスタ（R7.11）に参加し、芦北町健康福祉課と連携しながら、中高生に向けて避難所における感染症予防の啓発活動を行いました。（水俣市防災フェスタ 雨天により中止） 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、迅速に情報を得るため、EMIS入力率向上に向けた入力研修及び訓練を実施する必要があります。また、医療機関以外の関係機関（市町、消防、医師会、歯科医師会 等）も対象とした研修を進めていきます。 ・今後も、県や市町が主催する防災関係イベントに参加し、関係機関との連携に努めます。

<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣、芦北地域における発災を想定したリモート会議立ち上げ訓練に参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の初動対応の手順を確認するとともに、関係機関・団体等との連携を確認しました。 ・令和8年度水俣市防災フェスタを実施予定です。
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療救護班（水俣地区：5班、芦北地区3班）を編成し、有事の際に備えた。 ・水俣市が実施する防災フェスタに参加する前提で準備を行ったが、雨天のため中止となり参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、医療救護班を編成し、有事の際に備える。 ・今後も引き続き、防災フェスタ等へ参加し、災害時の対応について検討を行う。
<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害薬事コーディネーター研修会開催（熊本県薬剤師会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害薬事コーディネーター研修会の開催
<p>[国保水俣市立総合医療センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛星電話の定期的な通信確認、訓練実施 ・DMATチームを中心とした災害時の大量傷病者受入訓練の実施 ・被災地へのDMATメンバーの派遣 ・研修、訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定期的な訓練等を実施し災害時への対応に備える
<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/10に発災を想定したリモート会議立ち上げ訓練に参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月豪雨災害の経験を踏まえ、発災時に関係機関がすぐに参集できない場合においても会議をリモートで開催できる仕組みを構築できました。 訓練の課題として、被害報告の取りまとめが、医師会と重複することと、ZOOMを使用する場合、会議で使用するIDとパスワードは会議専用を設定し、事前に周知する必要があると感じました。

<p>[水俣芦北広域行政事務組合消防本部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城南ブロック消防本部（水俣、八代、人吉、上球磨）での合同訓練、熊本県総合防災訓練（豪雨対応訓練、地震対応訓練）及び水俣市防災フェスタを通じて、近隣消防本部、各構成市町、警察及び自衛隊との連携強化を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も各機関との連携訓練へ積極的に参加を行い、円滑な連携ができるように練度を高める必要があります。 ・城南ブロック消防本部合同訓練【毎年】 ・熊本県総合防災訓練（豪雨対応訓練）【毎年】 ・熊本県総合防災訓練（地震対応訓練）【数年毎】 ・水俣市防災フェスタ【毎年】
<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郡市歯科医師会でも災害時も連絡網の作成に取り掛かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が日本歯科医師会にあるJADTのe-ランニングを利用して学ぶ。

【芦北保健医療圏】

(8) 新興感染症の発生・まん延時における医療

【現状と課題】

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大時には、芦北圏域の医療関係者と連携し、入院・外来医療提供体制の確保を行いました。一方で、圏域内で確保病床を有する医療機関は、感染症指定医療機関の1か所しかなく、特に感染者が増加した時期やクラスター発生時には診療を制限せざるを得ない状況も生じました。

○新興感染症発生時においては、感染症指定医療機関の医療提供体制を十分確保することが重要であり、このためには、圏域内の医療機関の役割分担を徹底し、感染症指定医療機関の負担を軽減する必要があります。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・熊本県感染症予防計画を踏まえ策定する健康危機対処計画に基づき、保健所内の体制整備及び関係機関との連携を図ります。</p>	<p>[水俣保健所]</p>	<p>・今後も、健康危機対処計画に基づいた新興感染症発生時における関係機関との連携について努めます。</p>
	<p>[水俣市]</p> <p>・現在作成している「水俣市新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき、関係機関との連携を図っています。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対応の課題や関係法令の改正等を踏まえ、政府行動計画、県行動計画に基づき令和7年度、水俣市新型インフルエンザ等対策行動計画について改定予定です。</p>	<p>・令和7年度、改訂した水俣市新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、関係機関と連携を図ります。</p>
	<p>[芦北町]</p> <p>・「芦北町新型インフルエンザ等対策行動計画」を改定し、関係機関と連携を図りました。</p>	<p>・令和7年12月に「芦北町新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定しました。令和8年度は新型インフルエンザ等対策業務継続計画（BCP）の作成に努めます。</p>
	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・郡市医師会感染症担当理事連絡協議会等に参加し、情報共有に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、郡市医師会感染症担当理事連絡協議会等に参加し、情報共有に努める。</p>

	<p>[水俣芦北薬剤師会]</p>	<p>・新興感染症を想定した、防護服、マスクなどの備蓄を整備</p>
<p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会（健康危機管理推進会議）において、新興感染症発生時の医療提供体制の検討及び情報共有に努めます。また、感染症指定医療機関である国保水俣市立総合医療センターが行う感染対策連携カンファレンスにおいて、日頃から各医療機関との連携強化を図ります。</p>	<p>[熊本県看護協会水俣芦北支部]</p> <p>・熊本県看護協会共催研修「感染管理・基礎編」開催しました。</p>	<p>・2回の研修を開催し延べ32名が参加しました。今後も要望確認しながら継続していきたいと思います。</p>
	<p>[水俣保健所]</p> <p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会（健康危機管理推進会議）では、今年度の健康危機管理に関する取り組み状況の共有を行いました。また、国保水俣市立総合医療センターが主催する感染対策連携カンファレンスに参加し、感染状況・各医療機関の予防に関する取り組みの把握等を行い、連携体制の構築に努めました。</p>	<p>・今後も、芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会（健康危機管理推進会議）を開催し、新興感染症発生時の医療提供体制の検討及び情報共有に努めます。また、感染対策連携カンファレンスに参加し、各医療機関との連携強化に努めます。</p>
	<p>[水俣市]</p> <p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、情報の共有に努めました。</p>	<p>・引き続き、芦北圏域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との情報共有に努めます。</p>
	<p>[芦北町]</p> <p>・芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、情報の共有に努めました。</p>	<p>・引き続き、芦北地域保健医療推進協議会救急医療専門部会に参加し、関係機関との情報共有に努めます。</p>
	<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・感染症指定医療機関である国保水俣市立総合医療センターが開催する感染対策連携カンファレンスに参画し、知識の習得及び関係機関等との連携強化に努めた。</p> <p>・日本医師会生涯教育講座において、新興感染症対策についての知識や対策等の習得に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、感染対策連携カンファレンスに参画し、知識の習得及び関係機関等との連携強化に努める。</p> <p>・今後も引き続き、研修会等を開催し、知識の習得及び関係機関等との連携強化に努める。</p>

	<p>[国保水俣市立総合医療センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国保水俣市立総合医療センターにおいては、感染対策連携カンファレンスのほか、地域の医療機関や介護施設と連携し、訪問調査や感染対策に係る研修、受入訓練等を実施した。また、当院内の取り組みとしては、新興感染症対策に関するマニュアル改定を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療施設や介護施設等からの研修相談依頼が増加し、新興感染症対策の強化体制が窺えるようになった。今後も引き続き、感染症指定医療機関としての取組を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・消防、医療機関と連携し、新興感染症発生を想定した訓練を行い、日頃から関係機関との役割の明確化、連携強化に努めます。 	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防本部とのエボラ出血熱患者等移送訓練の協定に基づいた移送訓練を、消防本部、国保水俣市立総合医療センターと連携して行いました。(R8.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、消防、国保水俣市立総合医療センターを中心とした連携体制の強化を図りながら、新興感染症の発生を想定した訓練の実施に努めます。
	<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応の課題や関係法令の改正等を踏まえ、政府行動計画、県行動計画に基づき令和7年度、水俣市新型インフルエンザ等対策行動計画について改定予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度、改訂した水俣市新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、関係機関と連携し訓練を行い、関係機関との役割の明確化、連携強化に努めます。

【芦北保健医療圏】

(9) 歯科保健医療

【現状と課題】

○令和3年度（2021年度）における3歳児のむし歯有病率は26.4%で、県平均の16.6%より高く、乳幼児期の早期から歯科保健指導やフッ化物歯面塗布等のむし歯予防の取組が必要です。

○12歳児の一人平均むし歯本数は徐々に少なくなっていますが、令和4年度（2022年度）は0.93本と県平均の0.77本より高い状況です。また、令和4年度（2022年度）における保育施設でのフッ化物洗口実施率は56%で、県平均の68.3%より低く、保育施設から中学校まで継続したフッ化物洗口の実施が必要です。

○健康増進事業における歯周疾患検診は、2市町が実施しています（令和5年度）。全市町が検診を実施することで、身近な地域で歯周疾患検診及び歯科保健指導を受けることができる体制を構築する必要があります。

取組の方向性	取組内容（令和7年度）	成果及び課題と次年度以降の取組方針
<p>・3歳児のむし歯有病率を改善するため、妊娠期及び乳幼児期の早い段階から歯磨きや適切な食生活習慣の充実に取り組めます。また、1歳から定期的なフッ化物塗布ができる環境づくりに取り組めます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師会や歯科衛生士会、栄養士会等と連携し、GWに歯科保健に関するイベントを1回開催し、無料のフッ素塗布や歯科相談等を実施した。 ・令和7年6月に水俣・芦北地域歯科保健連絡会幹事会を開催し、管内の先進的な取り組みである芦北町の「1歳児歯科健診」「2歳・2歳6か月児フッ化物塗布」「成人歯科健康健診」について他市町への紹介および意見交換の機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの合計参加者数（延）：約150名 （くまモン来場時には、約70名程度集客あり） ・引き続き歯科保健連絡会やイベント等を通して、住民に歯磨きや適切な食生活習慣の普及啓発を行う。関係機関と顔のみえる関係性を構築し、1歳から定期的なフッ化物塗布ができる環境づくりに取り組む。
	<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時に妊婦への歯科健康診査の受診勧奨、適切な食生活についての指導を行いました。 1歳6か月児健診及び3歳6か月児健診で、歯科健診、フッ化物塗布、歯科指導を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度の1歳6か月児と3歳児のむし歯保有者率は共に県と比して高い状況です(1歳6ヶ月児：水俣市 4% 県 1.21%、3歳児：水俣市 27.67% 県 14.82%)。 3歳児のむし歯保有者率を改善するために、今後も妊娠期及び乳幼児期への歯磨きや適切な食生活習慣の充実に向けた取組を継続実施します。

<p>[芦北町]</p> <p>・妊婦歯科健診、1歳児歯科健診、幼児フッ化物塗布等を実施し、関係者・関係機関と連携をとりながら、保護者に対してむし歯予防に関する食生活や生活習慣等の正しい知識の普及啓発を行いました。</p>	<p>・3歳児のむし歯保有率は県と比較し高い状況です（令和4年度）。次年度以降も引き続き、関係者・関係機関と連携をとり、継続して取り組んでいきます。</p>
<p>[津奈木町]</p> <p>・1歳6か月児健診、3歳6か月児健診、2歳児歯科検診において、希望者にフッ化物塗布を実施しました。</p>	<p>・引き続き、関係機関との連携を取りながらフッ化物塗布事業を実施します。</p>
<p>[水俣市芦北郡医師会]</p> <p>・歯科保健連絡会に参画し、情報共有及び関係機関等との連携強化に努めた。</p>	<p>・今後も引き続き、歯科保健連絡会に参画し、情報共有及び関係機関等との連携強化に努める。</p>
<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <p>・妊婦健診 1歳、1歳半、3歳歯科検診とフッ化物塗布 2歳は町内歯科医院でのフッ化物塗布</p>	<p>妊婦健診の受診率は低い。 フッ化物塗布率は上がっている。</p>
<p>[熊本県歯科衛生士会水俣芦北郡支部]</p> <p>・水俣市の1才半健診、3才児健診において希望者にフッ素塗布実施 ・5/4 水光社にて「歯っぴー健康ひろば」を開催 希望者にフッ素塗布とブラッシング指導を実施</p>	<p>・健診時のフッ素塗布や必要性など説明する ・「歯っぴー健口広場」や水俣市が開催する「健康まつり」においてもフッ素塗布を実施する</p>
<p>[栄養士会水俣地域事業部]</p> <p>・イベントにおいて栄養相談を実施しました。また、歯によいおやつのサンプル（手作り見本）とレシピを紹介しました。市販されているおやつも数点紹介しました。</p>	<p>・歯によいおやつのサンプルは子どもから大人まで参考になるよう工夫しました。おやつのサンプルは試食が難しいので、代わりに市販のおすすめおやつを紹介しました。</p>

<p>[水俣市保育協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各園において、食後の歯磨きやうがいの実施、熊本県歯科衛生士会水俣・葦北郡支部の歯科講習会（歯磨き隊）による歯科講習の訪問指導、年2回の歯科検診（治療の呼びかけ）、保健便りや園便りによる歯科保健に関する保護者への情報提供、給食時の咀嚼吸収（よく噛む）ための言葉かけや関わり、歯や虫歯に関する絵本や紙芝居の読み聞かせによる園児への啓発教育など取り組んでおります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物洗口の実施は、保護者の理解、物的な環境面、職員の負担感の違いなどから、各園での実施の有無が異なっております。 <p>保育現場において、0～1歳から入所しているお子さんに比べ、3歳以降から入所するお子さんの感覚過敏や口腔内の育ちの未成熟さ、偏食や虫歯の多さなど見られます。家庭で育児をされている保護者にこういった情報提供や啓発活動ができるか課題です。</p>
<p>[葦北郡保育協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物の「すすぎ」や「うがい」等の自主的な運動が困難なため、効率よく洗口できる方法を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物の「すすぎ」や「うがい」等の自主的な運動が困難なため、園児個人の能力や体格を考慮した上で、園児個人に合わせた口を含む量や時間の調整をおこなった。引き続き、定期的かつ効率的なフッ化物洗口ができる環境づくりに取り組む。
<p>[水俣私立幼稚園協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防に関するお話等では、単なる知識の伝達ではなく、遊びながら自然と学べるクイズ形式を取り入れて小さい子どもたちにもわかりやすいように「歯の大切さ」を楽しく伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する子ども達が自分で考え、答えるという体験を通じて印象的に内容を覚えることができている。 ・「今日はこんなクイズやったよ」と会話も弾み親子で虫歯予防について話すきっかけになっている。

<p>・12歳児のむし歯予防対策の推進のため、保育施設でのフッ化物洗口実施率80%を目指します。また、小・中学校の効果的なフッ化物洗口の実施に努めます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣市の全保育施設に施設で実施している歯科保健の取組やフッ化物洗口に対する意向を聞き取った。 ・市町を通して保育施設のフッ化物洗口の実施状況を確認した。また、令和7年6月に水俣市の歯科保健担当者と今年度の方向性について打ち合わせを実施した。 <p>令和7年10月時点の実施率：54.5% (芦北町・津奈木町 100%、水俣市 23.1%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年10月時点における管内のフッ化物洗口実施率は54.5%で、令和6年度から横ばいで推移している。 ・水俣市内のすべての保育施設を直接訪問し、聞き取り調査を行ったことで、顔の見える関係づくりにつながった。 ・各施設の意向を尊重しながら、フッ化物洗口実施の継続・定着を図るとともに、実施施設の増加に向けた働きかけが必要である。
	<p>[水俣市]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設では5園でフッ化物洗口を実施予定です。 ・小中学校においては、全校でフッ化物洗口を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度の保育施設でのフッ化物洗口実施率は、23.1%と県内で最低の状況である為、今後も関係機関と連携し、フッ化物洗口実施率向上のための取組を行う必要があります。小中学校においても教育課や小中学校と連携し継続実施する必要があります。
	<p>[芦北町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者を対象に、保育施設にて週5回法、小中学校にて週1回法でフッ化物洗口を実施しました。希望する学校において、歯科衛生士による歯みがき指導（健康教育）を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内全保育施設、全小中学校でフッ化物洗口を実施しています。 次年度以降もフッ化物洗口及び健康教育について保育施設や学校と連携を取りながら継続して実施していきます。
	<p>[津奈木町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の保育園（2園）、小・中学校（各1校）において、フッ化物洗口事業を実施しました。希望する学校において、歯科衛生士による歯みがき指導（健康教育）を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係機関との連携を取りながらフッ化物洗口事業を実施します。
	<p>[水俣芦北薬剤師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校薬剤師におけるフッ化物洗口の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校薬剤師におけるフッ化物洗口支援

<p>[芦北教育事務所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校、歯科保健指導を学校保健年間指導計画に位置付け、指導の充実を図っています。 ・管内の全ての小中学校において、フッ化物洗口を実施しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校、歯と口の健康月間を設定し、子供の実態に応じた歯科保健指導を実施することができました。 ・各学校、フッ化物洗口実施手順に基づき、確実に実施できました。 ・関係機関と連携し、各学校の課題に応じたより効果的な実施について指導・助言等を行います。
<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設でのフッ化物塗布、乳児はレノビーゴを利用する。小、中学校も週1回のフッ化物洗口を実地。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物洗口実地率は芦北町では98%と目標は達成している。
<p>[葦北郡保育協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の方針によってはフッ化物洗口の実施に至らない児童も見受けられることから、フッ化物洗口の有効性について家庭への働きかけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物洗口の実施率は80%を超えてはいるが、家庭の方針によって実施に至らない児童が必ず存在する。この現状を踏まえ、今後も継続的に保育士や専門家、媒体等による啓発活動を行う。
<p>[水俣私立幼稚園協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4才児以上から、フッ化物洗口を音楽に合わせて毎日行うことで、予防に関する子ども達の意識を高めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズの内容をまとめ、簡単な解説をセットにし保護者に配布して、子どもがどんな学びを得たのか伝わりやすく伝えてゆきたい ・フッ化物洗口は3才児も水うがいで参加することで次年度からの練習ができています

<p>・成人期において、健康増進事業における歯周疾患検診の全市町での実施と、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科検診や歯石除去・歯科保健指導を受ける必要性についての普及啓発に取り組みます。</p>	<p>[水俣保健所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患検診を未実施である津奈木町から次年度以降の事業開始に向けた相談があった際、他市町の実施状況等について情報提供を行った。 ・「歯と口の健康週間」等の歯科保健に関するイベントの際に、Xで歯科に関する普及啓発を行った。 ・他機関と連携し、歯科保健に関するイベントを1回開催し、歯科相談等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津奈木町へ他市町の実施状況を提供することで、同町の事業立ち上げ検討を支援した。全市町での歯周疾患検診が実施できていないため、引き続き熊本県口腔保健支援センターと連携しながら実施に向けた支援を検討していく。 ・「歯と口の健康週間」やその他イベント等の機会を活用し、歯の衛生に関する正しい知識の普及啓発を図っていく。
	<p>[水俣市]</p> <p>水俣市国保歯周疾患検診（20歳以上の国民健康保険加入者を対象とした歯周疾患検診）を実施しました。</p> <p>※健康増進事業における歯周疾患検診ではありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページへの掲載等で周知を実施しているが、対象者への認知度が低く、受診者が少ない状況です。成人期の歯周疾患予防の為に、かかりつけ歯科医で定期的な歯科検診を受ける必要性の普及啓発や歯周疾患検診受診者数の増加へ向けた取組みを行う必要があります。
	<p>[芦北町]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣芦北歯科医師会へ委託し、町内の歯科医院で年度末年齢20、30、40、50、60、70歳を対象に歯科健康診査を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に受診者数は少ないですが、特に若い世代（20、30歳）の受診者数が少ない状況です。引き続き歯や口の健康の大切さを伝え、特に若い世代の受診者が増えるよう受診勧奨を行っていきます。
	<p>[津奈木町]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに20歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳の方を対象に歯周疾患検診を実施予定です。
	<p>[水俣芦北郡市歯科医師会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節目健診と妊産婦健診をしている。健康フェアでの歯科相談も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人や妊婦の健診率が低い。かかりつけ歯科医を持っている人は多い。

<p>[熊本県歯科衛生士会水俣芦北郡支部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人期の方と健診でかかわることはまだありません ・歯科衛生士会の取り組みとして特別養護老人ホーム「白梅荘」において入所者の方の口腔チェックを行い（月に1会程度）各自のチェック表作成（口腔ケアグッズの必要性や、それぞれの口腔ケアの方法をスタッフの方と共有していく。ご自身ではケアできない方もいるのでスタッフの方に方法を説明する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・引続き白梅荘入所者の方全員の口腔チェック表作成に取り組み、口腔ケアを実施して健康なお口の維持を目指す
<p>[葦北郡保育協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫歯予防に関する保健だよりや行事等を通じて、意識向上の為の啓発活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯予防に関する保健だよりや連絡ノート、行事等（虫歯予防の集い、虫歯を治療した子どもへの表彰、歯磨き
<p>[水俣私立幼稚園協会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたらずぐ歯を磨く習慣の徹底や年齢に応じた仕上げ磨きやを行い、カルシウムを多く含む食品を積極的にとりいれたり、よく噛んで食べる習慣が身につけることで歯の健康づくりの支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの指導で、歯磨き習慣は定着してきている ・夜の歯磨きの重要性や、バランスのとれた食生活の大切さをしっかり伝えてゆきたい